書誌・出版史・書物メディア史のシリーズ ＊文圃文献類従 61＊

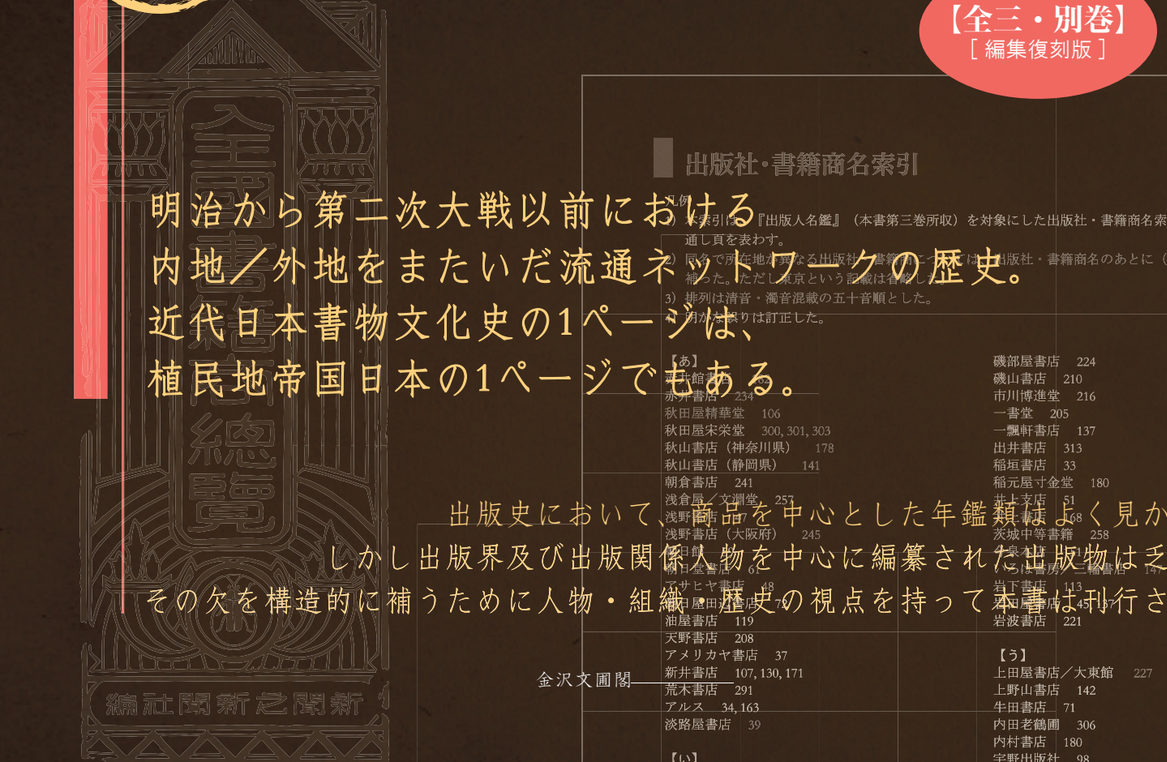
帝国日本の書籍商史

―人物・組織・歷史

【全三・別巻】
［編集復刻版］

明治から第二次大戦以前における
内地／外地をまたいだ流通ネットワークの歴史。
近代日本書物文化史の1ページは、
植民地帝国日本の1ページでもある。

出版史において、商品を中心とした年鑑類はよく見かける。
しかし出版界及び出版関係人物を中心に編纂された出版物は乏しい。
その欠を構造的に補うために人物・組織・歴史の視点を持って本書は刊行される。



出版社・書籍商名索引

凡例
1）本索引は、『出版人名鑑』（本書第三巻所収）を対象にした出版社・書籍商名索引である。番号は、通し頁を表わす。
2）いくつで所在地が異なる出版社・書籍商名は、出版社・書籍商名のあとに（　）で地域名を補った。ただし東京という記載は省略した。
3）排列は清音・濁音混載の五十音順とした。
4）明らかな誤りは訂正した。

【あ】
秋田屋精華堂　106
秋田屋宋栄堂　300, 301, 303
秋山書店（神奈川県）　178
秋山書店（静岡県）　141
朝倉書店　241
浅倉屋／文淵堂　257
浅野書店（大阪府）　245
アサヒヤ書店　48
油屋書店　119
天野書店　208
アメリカヤ書店　37
新井書店　107, 130, 171
荒木書店　291
アルス　34, 163
淡路屋書店　39

【い】
磯部屋書店　224
磯山書店　210
市川博進堂　216
一書堂　205
一飄軒書店　137
出井書店　313
稲垣書店　33
稲元屋寸金堂　180
井上支店　51
茨城中等書籍　258
岩下書店　143
岩波書店　221

【う】
上田屋書店／大東館　227
上野山書店　142
牛田書店　71
内田老鶴圃　306
内村書店　180

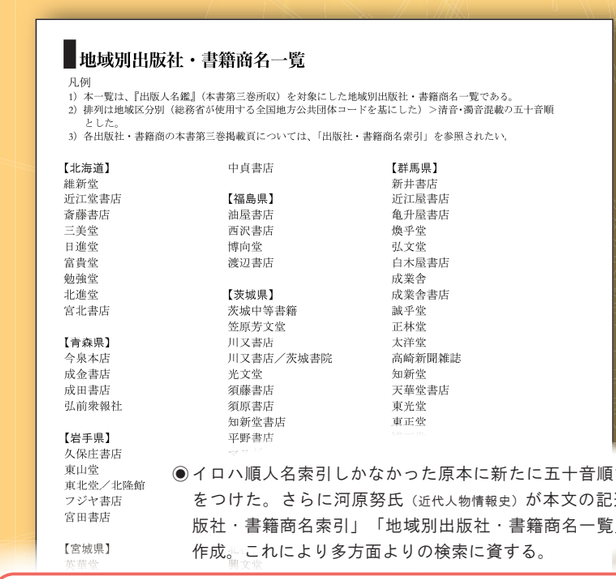
金沢文圃閣

帝国日本の書籍商史

―人物・組織・歴史

研究がようやく始まった、日本近代の出版流通史・メディア史・文化史の深化に本書がなりうるものと信じて刊行。

本に出会い、
人に出会う場所としての
帝国日本の本屋さん。
複数言語、複数民族の
接触領域として機能した書店では、
どのような邂逅があっただろうか？



地域別出版社・書籍商名一覧

凡例
1）本一覧は、『出版人名鑑』（本書第三巻所収）を対象にした地域別出版社・書籍商名一覧である。
2）排列は地域区分別（総務省が使用する全国地方公共団体コードを基にした）＞清音・濁音混載の五十音順とした。
3）各出版社・書籍商の本書第三巻掲載頁については、「出版社・書籍商名索引」を参照されたい。

【北海道】
維新堂
近江堂書店
斎藤書店
三美堂
日進堂
富貴堂
勉強堂
北進堂
宮北書店

【青森県】
今泉本店
成金書店
成田書店
弘前衆報社

【岩手県】
久保庄書店
東山堂
東北堂／北隆館
フジヤ書店
宮田書店

【宮城県】
芳華堂

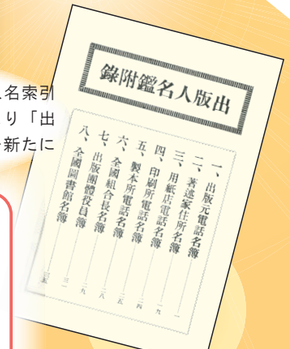
中貞書店

【福島県】
油屋書店
西沢書店
博向堂
渡辺書店

【茨城県】
茨城中等書籍
笠原芳文堂
川又書店
川又書店／茨城書院
光文堂
須藤書店
須原書店
知新堂書店
平野書店

【群馬県】
新井書店
近江屋書店
亀升屋書店
煥乎堂
弘文堂
白木屋書店
成薬舎
成薬舎書店
誠乎堂
正林堂
太洋堂
高崎新聞雑誌
知新堂
天華堂書店
東光堂
東正堂

◉イロハ順人名索引しかなかった原本に新たに五十音順で人名索引をつけた。さらに河原努氏（近代人物情報史）が本文の記述より「出版社・書籍商名索引」「地域別出版社・書籍商名一覧」を新たに作成。これにより多方面よりの検索に資する。



錄附鑑名人版出

監　修―大久保 久雄（出版史研究者）
編　集―金沢文圃閣編集部
推　薦―日比 嘉高（名古屋大学）
造　本―B6 判／A5 判並製（別巻のみ）
　　上製函、総 1,306 頁
揃　価―全三・別巻、64,000 円（配本毎分売可）
協　力―新聞之新聞社

「人物」
【第一回配本】2017 年 12 月　配本揃価 32,000 円　ISBN978-4-907236-84-7
3 巻（440 頁）
『出版人名鑑』（新聞之新聞社、1932 年）
別巻（222 頁）
「現代書籍文化号」『郷土関東』1 巻 5 号（昭和 12 年 10 月 1 日発行）」
『全国書籍商総覧』（新聞之新聞社、1935 年）掲載広告ほか
附録資料
総目次／出版・書籍商人物名索引／出版社・書籍商名索引／
地域別出版社・書籍商名一覧／推薦文

「組織・歴史」
【第二回配本】2018 年 6 月　配本揃価 32,000 円　ISBN978-4-907236-83-0
1 巻（284 頁）
「〔日本書籍商史、日本雑誌発達史、書籍雑誌商組織史〕」『全国書籍商総覧』
2 巻（360 頁）
「〔内地／外地の各地域書籍雑誌商史〕」『全国書籍商総覧』

Kanazawa Bumpokaku
金沢文圃閣
〒920-0867 金沢市長土塀2-16-30
Tel 076-261-8884　Fax 233-3111

□書店様へ…ありがとうございます
直接小閣までお申し込みください

図版は本書より　価格は税別　048／11／4000

本書『帝国日本の書籍商史―人物・組織・歴史』を補完する類縁資料

大久保久雄 監修
『日本書籍商史―明治大正昭和戦前期』
全 2 巻　総 840 頁　42,000 円

内地／外地をまたぐ、いわば「帝国日本の出版界ハンドブック」。1930年代半ばまでの出版流通網の形成と史的展開を追う。

◉推薦文

失われた〈帝国の書籍商〉の足跡を追う

日比 嘉高（ひび よしたか／名古屋大学）

人が本に出会うもっとも身近な場所は、街の本屋であった。あったと書かねばならない現在、街の本屋は次々に姿を消し、駅前や郊外の大型店舗さえも苦境のうちにあり、書物はネットで注文し、包装されて届くものという感覚が強まりつつある。街のあちこちに小さな本屋があり、徒歩圏内にあったそこが本と出会う主要な場所であったような時代は、すでに記憶の中のものとなっている。

振り返れば、かつて本屋が海を越え、「外地」にまで進出していた時代があった。近代日本の対外的領土拡張の歩みの後を追い、本を売る商人たちが果敢に内地を飛び出した。逞しい商魂と植民地主義的野心と文化普及の熱意とが、北は樺太、旧満洲から南は南洋諸島まで、西は蒙彊から東は米大陸まで、書物の流通網を延伸させていった。それは近代日本の書物文化史の1ページであると同時に、植民地帝国日本の1ページでもある。いまや、それら書籍商たちの足跡も埋もれてしまった。

街の本屋が一般の読者にとってもっとも身近であった一方、調査研究の世界における小売書店はもっとも等閑視されてきた存在だったといっていい。調査者の関心が集まるのは、多くの場合、創作者や出版社という本の作り手たちである。本の売り手に目を向ける者は、少ない。末端、身近、零細な、あまりに平々凡々とした街の本屋という存在には、興味を引かれなかったのだろう。同時に、市井の小売書店の実像にどうやって迫ればいいのかという資料面、方法面での難しさもある。外地の本屋であれば、なおさらである。

今回復刻された『全国書籍商総覧』は、内地／外地の書籍商たちの浩瀚な人名録（日本民族だけでなく現地民族も含まれる）であり、彼らが組織した各地組合等の履歴簿である。いわば、帝国の本屋のプロフィール集だ。収録された「日本書籍商史概説」および書籍雑誌商団体史なども有用だが、とりわけ各地組合等の団体編の記述は、それぞれの内部者の筆によるものとおぼしく、地域的な特色の描出に始まり、設立の経緯、組織の概要、主要役員の紹介など基本的かつ重要な情報を示してくれている。併収された『出版人名鑑』では、個人の経歴や家族構成、趣味までが紹介され、一部の人物については写真入りで掲載されている。

附録資料の「現代書籍文化号」（『郷土関東』）と補い合って利用することにより、失われた〈帝国の書籍商〉たちの足跡を追う絶好の資料となるだろう。

賣上部數照合表

い	50部以下	の	2,500部以下
ろ	100 〃	お	2,600 〃
は	200 〃	く	2,700 〃
に	300 〃	や	2,800 〃
ほ	400 〃	ま	2,900 〃
へ	500 〃	け	3,000 〃
と	600 〃	ふ	3,100 〃
ち	700 〃	こ	3,200 〃
り	800 〃	え	3,300 〃
ぬ	900 〃	あ	3,400 〃

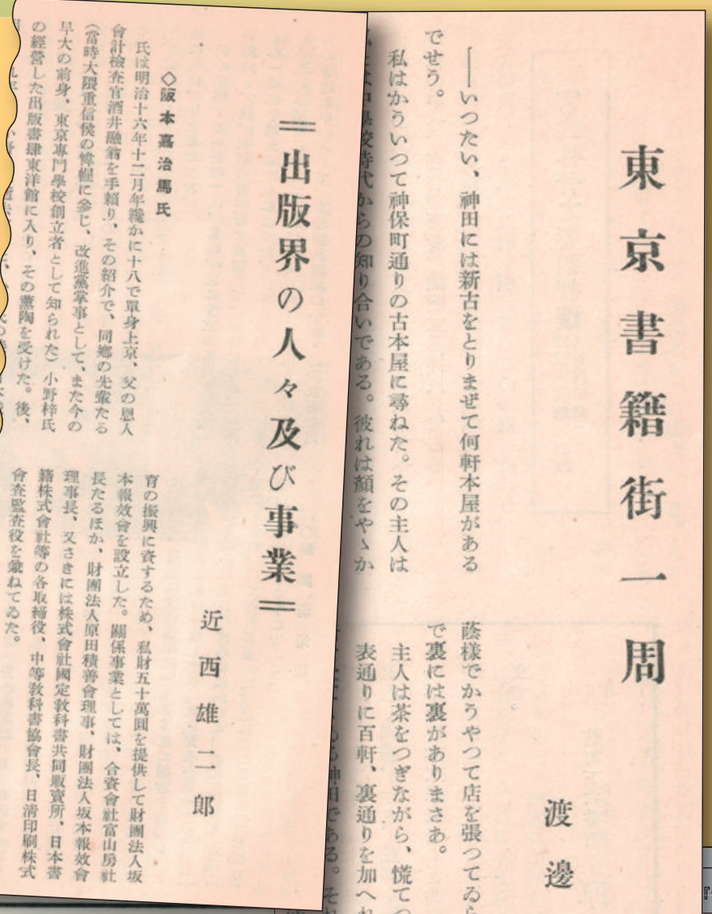
『全国書籍商総覧』について

注一）『全国書籍商総覧』については、「名鑑」部分のみが復刻されている（『出版文化人名辞典』4巻、1988）が、それ以外の内容については未収録であり、復刻はなされていない。CiNiiをはじめ各種OPAC上、『出版文化人名辞典』検索でヒット・掲載される「注記」の『全国書籍商総覧』（新聞之新聞社、1935年刊）の復刻」とあるのは誤記で、実際には「部分復刻」が正しい。

注二）なお、「名鑑」中の広告頁には、例えば、能文堂書店（満洲・撫順市）の写真も掲載されており貴重な資料となる。前記復刻書（1988）では広告頁が部分的に割愛されていて、今回の復刻に際しては、これら未収録の広告をすべて補った。

注三）また、前記復刻書（1988）では未収録であった原本巻頭の「売上金額略符照合表」ならびに「売上部数照合表」を特別収録。「名鑑」の最も当時重要な情報とされた「売上金額」・「部数」に関する記述の意味を今回、明らかにする。

様々な書誌事情によりこれまで見過ごされてきた資料を今回、整備するものである。



東京書籍街一周

渡邊竹二郎

——いつたい、神田には新古をとりまぜて何軒本屋があるでせう。

私はかういつて神保町通りの古本屋に尋ねた。その主人は

薩様でかうやつて店を張つてゐられますが、何樹實でも同じで裏には裏がありまさあ。

主人は茶をつぎながら、慌てつ私の言葉を打消した。表通りに百軒、裏通りを加へれば約二百軒も書籍業者が生

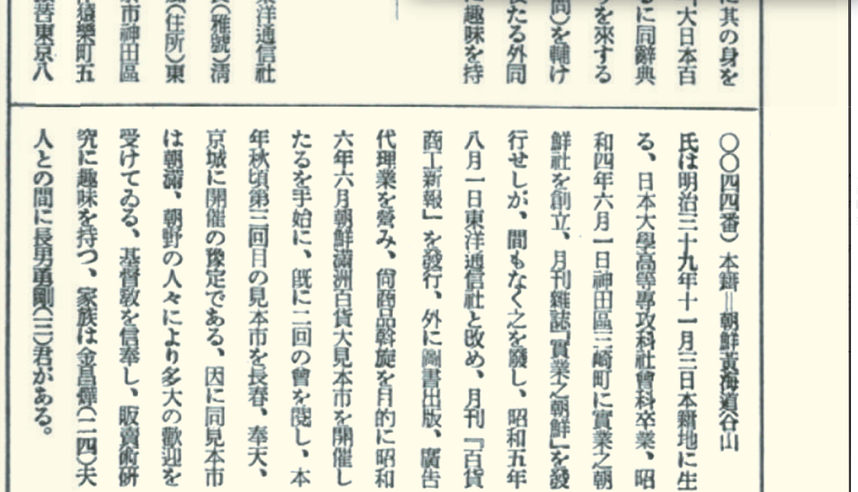
出版界の人々及び事業

近西雄二郎

◇阪本嘉治馬氏

氏は明治十六年十二月年幾かに十八で單身上京、父の恩人會社檢査官酒井融翁を手賴り、その紹介で、同郷の先輩たる（當時大隈重信侯の嫡孫に參じ、改進黨幹事として、また今の早大の前身、東京專門學校創立者として知られた）小野梓氏の經營した出版書肆東洋館に入り、その薫陶を受けた。後、

育の振興に資するため、私財五十萬圓を提供して財團法人坂本報效會を設立した。關係事業としては、合資會社富山房社長たるほか、財團法人原田積善會理事、財團法人坂本報效會理事長、又さきには株式會社國定教科書共同販賣所、日本書籍株式會社等の各取締役、中等教科書協會長、日清印刷株式會社監査役を兼ねてゐた。



明治初期の變態雜誌

——團々珍聞から我樂多文庫迄——

篠田鑛造

△戯作者文士の生活線確保

治時代の「變態雜誌」といふのは、維新政變の蹂躙に屈伏してゐる娯樂讀物が、彼是十年間、呼吸の根が止つてゐた復興である。其間に大新聞の股を潜つて、小新聞が擡頭し、戯作者文士は小新聞の志士に賣物を渡つて、雄か

ソコに「變態雜誌」の狙つた隙があつた。江戸期の慣は、文明開化の洋服を着て登場する餘裕がありあまつも日本服のチョン髷姿でも、敢てをくれを取らなか

頻りに猥雜卑近の讀者層へ呼應けて、混沌たる彼等を蹂躙した。勿論詩狂非卿の文典也鑑も記すまでも

○○四四番）本鮮＝朝鮮黃海道谷山氏は明治三十九年十一月三日本籍地に生る、日本大學高等專攻科社會科卒業、昭和四年六月一日神田區三崎町に實業之朝鮮社を創立、月刊雜誌『實業之朝鮮』を發行せしが、間もなく之を廢し、昭和五年八月一日東洋通信社と改め、月刊『百貨商工新報』を發行、外に圖書出版、廣告代理業を營み、倚商品斡旋を目的に昭和六年六月朝鮮滿洲百貨大見本市を開催したるを手始に、既に二回の會を開し、本年秋頃第三回目の見本市を長春、奉天、京城に開催の豫定である、因に同見本市は朝滿、朝野の人々により多大の歡迎を受けてゐる、基督敎を信奉し、販賣術研究に趣味を持つ、家族は金昌燁（二四）夫人との間に長男勇剛（三）君がある。

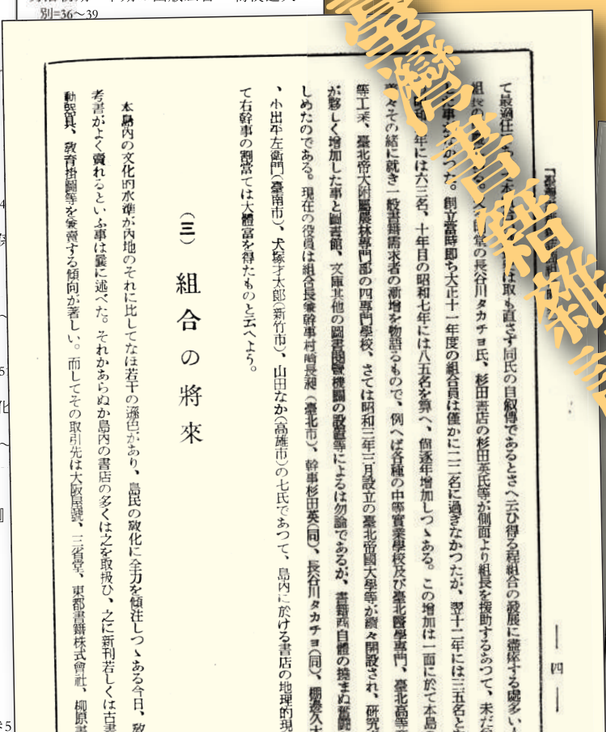
朱泰道

東洋通信社長（雅號）清風（住所）東京市神田區仲猿樂町五番地（電話九段二六八〇番、振替東京八

『帝国日本の書籍商史—人物・組織・歴史』総目次細目

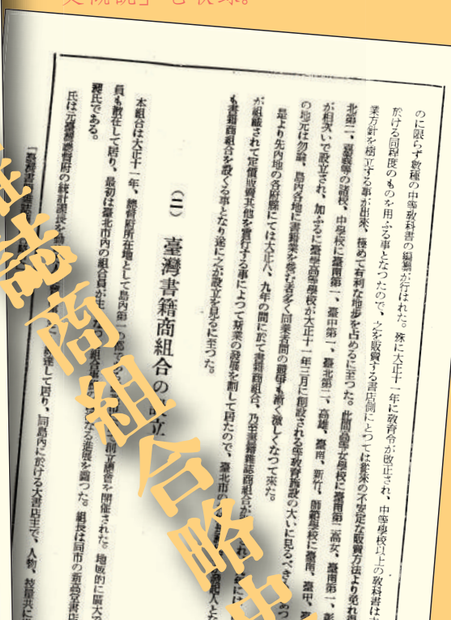
～324
樺太書籍雑誌商組合略史　2=325～327
台湾書籍雑誌商組合略史　2=328
（一）本島の文化史的観察　2=328～330
（二）台湾書籍商組合の設立　2=330～331
（三）組合の将来　2=331～332
朝鮮書籍雑誌商組合略史　2=333
（一）地理的・歴史的考察　2=333～335
（二）朝鮮教育制度の発達　2=335～338
（三）組合の創立及び発展　2=338～340
（四）諺文雑誌の発生並びに発達　2=340～343
（五）文化の現状と書籍商界との関係　2=343～345
満洲書籍雑誌商組合略史　2=346
（一）満洲の文化史的観察　2=346～348
（二）満洲書籍商組合の設立　2=348～349
（三）満洲書籍雑誌商組合　2=349～351
（四）定価五分増販売の諒解運動　2=351～353
（五）満洲国行雑誌輸送手続の簡易化　2=353～354
（六）満洲国の国定配給に就て　2=354～355
（七）組合の将来　2=355～357
=
「出版人名鑑附録」『出版人名鑑』（1932年8月1日発行）
出版元電話名簿　3=330～347
著述家名簿　3=348～352
用紙店電話名簿　3=353～354
印刷所電話名簿　3=354～356
製本所電話名簿　3=357～358
全国書籍商組合長名簿　3=358～359
出版団体役員名簿　3=360～363
全国図書館名簿　3=364～370

「現代書籍文化号」『郷土関東』巻5号（昭和12年10月1日発行）
明治初期・中期の出版広告　梅渓迂人　別=36～39



（三）組合の將來

本島内の文化的水準が内地のそれに比してなほ若干の遜色があり、島民の教化に全力を傾注しつゝある今日、教科書の考査がよく賞れるといふ事は當に述べた。それかあらぬか島内の書店の多くは之を取扱ひ、之に新刊若しくは古書、雜動製具、教育掛圖等を兼賣する傾向が著しい。而してその取引先は大阪屋號、三省堂、東都書籍株式會社、柳原書店、



◆小林鶯里や各地方書籍雑誌商組織当事者などの協力により、全都道府県の書籍雑誌商組織史を網羅する。さらに樺太・朝鮮・満洲・台湾などの外地書籍商の団体の歴史も詳細に記述。地域的な特色の描出に始まり、設立の経緯、組織の概要、主要役員の紹介は基本で重要。反町茂雄が執筆したとされる「日本書籍商史概説」も収録。

都道府県書籍雑誌商組合略史